

朝日・高根地域における教育環境整備に向けた方向性について

1. 朝日・高根地域での取り組みの経緯

- ・朝日・高根地域では、「朝高子どもしとねる会」を中心として、地域ぐるみでこどもの育成が行われてきたが、人口減少が急速にすすんでいるため、平成29年度から学校のあり方を検討する取り組みが行われてきた。
- ・令和3年度からはまちづくり協議会が中心となり「朝日・高根学校のあり方を考える会」が発足され、議論の場を町民全体に広げて検討がすすめられており、令和4年3月に小中学校が一つとなった義務教育学校を目指すとした「朝日・高根地域における学校のあり方について（提言）」が市に提出された。
- ・令和6年2月に「朝日・高根地域ぐるみで子どもの育成を考える会」（朝日・高根学校のあり方を考える会から名称変更）から義務教育学校の早期実現に向けて着実に取り組むよう、「義務教育学校の早期実現について（お願い）」が市に提出された。

2. 児童・生徒数の状況

別紙1

（1）現状

- ・朝日小学校の児童数は49名、一部複式学級を編制しており4学級となっている。
- ・朝日中学校の生徒数は29名となっている。

（2）今後の推移

- ・令和18年度の朝日小学校の児童数は28名まで減少し、全学年で複式学級を編制することとなり3学級となる見込みである。
- ・朝日中学校の生徒数は14名まで減少する見込みである。

3. 施設の現状

（朝日小学校）

- ・校舎は平成11年建築、屋内運動場は平成2年建築であり、朝日中学校に比べて新しい施設である。

（朝日中学校）

- ・校舎は昭和58年建築、屋内運動場は昭和59年建築であり、施設の老朽化がすすんでいる。

4. 朝日・高根地域における教育環境整備の考え方

朝日小学校・朝日中学校を義務教育学校に移行する。

【理由】

- ・地域では以前より「朝高子どもしとねる会」など地域でこどもを育む環境があることや、これまでの保小中連携教育の経験を活かしつつ、義務教育学校とすることで、朝日・高根地域における特色ある教育課程を実施し、保育園・小中学校と地域が一体となった教育環境づくりを推進する。

5. 義務教育学校の整備予定地

別紙2

朝日町万石728番地（現在の朝日小学校敷地内）とする。

【理由】

- ・朝日小学校は、地域の中心部に位置しており、既存校舎が平成11年建築で比較的新しく、安心安全な教育環境の整備を行いやすく、義務教育学校への移行も可能である。
- ・朝日中学校は、小学校に比べ地域の中心部から外れており施設の老朽化もすすんでいる。また、敷地が土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されているため改修又は建設することは困難である。

【課題とその対応案】

- ・朝日小学校敷地の一部が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定されている。
⇒イエローゾーンにおいては建築制限はないが、安全面に少しでも配慮するため、新たな施設はイエローゾーン外への整備を基本とする。なお、現校舎の一部がイエローゾーンに指定されていることから、避難確保計画の作成や避難訓練の実施等によりソフト面での安全対策を図る。

6. スケジュール

令和6年度	地元説明
令和7年度	設計
令和8・9年度	施設整備 学校の設置に関する例規の整備
令和10年度	義務教育学校へ移行

朝日小中学校の児童・生徒の推移

区分			
	小学校 児童	中学校 生徒	児童・生徒計
R3	50	44	94
R4	48	42	90
R5	44	40	84
R6	49	29	78
R7	49	23	72
R8	49	21	70
R9	45	23	68
R10	41	26	67
R11	38	24	62
R12	33	26	59
R13	32	23	55
R14	29	25	54
R15	30	19	49
R16	28	18	46
R17	29	13	42
R18	28	14	42

※令和6年度までは実績による人数、令和7年度以降は推定人数



レッドゾーン



イエローゾーン